



様化と拡大を進めます。2015年3月期は2014年3月期をボトムとして利益拡大すると予測しております

## タイ

方針：今後とも現在の営業拡大よりも、ポートフォリオの質を重視した営業方針を継続し、既に拡大した営業貸付金を基礎に、利益の増大を目指します。

- ・ 2014年3月期を通してタイ国の政治不安定、世界景気減速などの影響がありましたが、これらの状況がどのように推移するかにより、上振れ下振れ両方の要因となります。
- ・ タイ国内においては営業貸付金の増大は直近では目指しておらず、横ばいないし微減すると予想しております。このため売上高も横ばいないし微減すると予想しています。
- ・ 上記に備えて進めました、タイ国内における審査の厳格化によりポートフォリオの入れ替えが進んでおり、第4四半期より引当金等の計上減少が始まっております。今後この傾向が継続すると予測しております。

## カンボジア

方針：2014年3月期に営業網の展開を終え、また農機具リースにも進出を果たしました。今後はこの営業網を活かして積極的に営業拡大を目指します。

- ・ 営業網の拡大と、各拠点でのリース周知が進み、順調に新規契約数が増加しています。2015年には収益貢献が開始すると予想しております。
- ・ タイと比べても極めて低い貸倒率が続いており、利益率はタイよりも大きくなると予想しております。
- ・ 農機具リースは新しい分野であるが、着々と契約が締結されており、今期には収益として計上され始めます。

- ＊ ファイナンス事業は売上高、営業利益、経常利益については連結子会社として100%連結されておりますが、持分割合の関係から純利益段階では約20%程度しか取り込まれません。

## ② ゴム事業

100%子会社の行う事業であるゴム事業の不調が続いており、新規製品の投入に時間を要しています。同事業は、プラント等において耐蝕性などを提供するためのゴムライニング、産業機器等の部品として使われる産業用ゴム製品群、医療等に使われる消費用ゴム製品群を提供しております。1970年代終わりから同事業の不振が続いております。

また、2000年代に入っても、新規商材が長期にわたってない状況が続いております。同事業の新規製品は、品質等の試験なども長期にわたるのが一般的であり、売上に至るまでに数年、5年以上かかることも珍しくありません。このため、今期においても新規製品率は低いままとなっております。このため製品ポートフォリオの入れ替えが進まず、縮小が進んでおりました。

方針：長期的視点から新規製品開発を継続し、また、意思決定の迅速化を図ることで投入後の販売活動を強化し、ASEAN地域での事業拡大を加えて、中期的に回復を図る現在の施策を増強する。このことにより製品ポートフォリオの改新と拡大を達成してまいります。

- ・ 同事業日本国内は日本の民間設備投資動向との売上連動性が高く、今後のアベノミクス等による日本国内景気の動向によって上振れ下振れ両方の可能性があります。
- ・ この6年間安定した経営体制の元、開発を続けており2015年3月期下期以降新規商材が収益貢献をすると予想しております。
- ・ マレーシア子会社においてゴムライニング事業を行っておりますが、既にお知らせしました新しい経営陣の元、第4四半期には大きく業績を伸ばさせており、今後も継続すると予測しております。
- ・ 新たに事業提携を結んだ常盤ゴム、またタイ、マレーシア、中国にあります当社グループ拠点との連携によって事業拡大を目指します。

### ③ スポーツ事業

100%子会社の行う事業であるスポーツ事業は売上高、利益とも増加傾向にあります。当社の創業事業でありますソフトテニス関連事業が堅調に推移するとともに、2009年に再進出した硬式テニス分野も成長いたしました。現在は堅調に推移しておりますが、今後力強い成長に向けさらに施策を実行していく必要があります。

方針：スポーツコミュニティへの密着を継続することで、活性化を図るとともに、当社事業の深化を図ります。

- ・ 長期的に見て少子高齢化が進むことで、市場が縮小すると予測しております。短期的に急速に進むものではありませんが、生き残り競争の状況であると認識しております。
- ・ すでにソフトテニスのみでなく、硬式テニスに事業ポートフォリオを多様化しております。さらに国内外のその他のスポーツ市場への多様化を図ります。
- ・ 2014年3月期終盤において、硬式テニス分野が顧客数を大きく伸ばしましたので、一定の収益貢献があるものと予測しております。

### ④ コンテンツ事業

ジャスダック上場子会社が行うコンテンツ事業は中期的に事業ポートフォリオの組み替えを行ってまいりました。すでに事業の選択と集中が相当に進んだ2014年3月期には、中核と考えるカードゲームビジネスならびに編集ビジネスにおいて集中して営業活動を行ってまいりました施策が功を奏し、顧客、コンテンツのポートフォリオの多様化と拡大を達成しております。

2014年3月期においては従来からの収入の柱でありますライセンス収入が落ち込んだことで減収減益になりましたが、特に後半において上記活動による収益拡大が顕在化しております。

方針：現在好調に推移するカードゲームビジネスを継続拡大するとともに、新規事業を複数立ち上げて事業ポートフォリオの多様化と拡大を継続します。

- ・ 日本における出版業界の苦境は長期化しております。その短期的状況によって左右される可能性があります。
- ・ この中で手掛けておりますカードゲームならびにサブカルチャーコンテンツは特色ある分野であり、今後コアコンピタンスとなっていくと考えております。
- ・ これらのコンテンツは世界的にもクールジャパンとして浸透していく可能性のある分野であり、現在も取り組んでおります他国展開が事業拡大の機会となると予測しております。

当社グループはこの7年間の間に大きく事業ポートフォリオを拡大、革新し、35年間の業績不振を脱して、格段に規模を成長させるとともに、営業利益を安定して出せる状況となりました。一方、35年間の不振の原因となったゴム事業を不振から再生する取り組みは道半ばです。

今後とも、全事業を成長させ、株主の皆様、関係者の皆様のご期待に添うべく尽力してまいります。

今後とも何卒ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上